

科目名 (英)	キャリアデザインⅡ Career DevelopmentⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小櫃 綾乃
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	木曜日/6.7限:対面
講師紹介	中学高等学校英語教諭Ⅰ種取得、訪問介護員2級養成研修課程修了、歯科医院での臨床経験(一般歯科・予防歯科・口腔外科・審美歯科等)、企業健診経験など豊富な実務経験を有す。2014年より歯科衛生士養成校にて専任教員として勤務						
目的	それぞれが持ち合わせているキャリアを職業へと繋げることを目的とする。						
科目概要	卒業後の将来像を明確にし、学び続ける姿勢を身につける。						
到達目標	社会から求められている歯科衛生士像と現在の自分の差を課題として、既に持ち合わせているキャリアをスキルアップ、ブラッシュアップさせる。						
評価方法	出席率、個人課題評価の要素で評価する。評価はS(合格)またはU(不合格)にて表記する。 □筆記試験 □口頭試験 □実技試験 ■その他()						
教科書				事前事後 学習と その内容	1回目～6回目の事前学習は不要。 提出する課題は「卒業制作」となるので、発表のアウトプットや考察も含めて作成すること。		
参考図書							
特記事項	7回目は全員登校にて発表の授業となる。 発表日の欠席、課題の未提出や遅提出、指示不履行は評価に大きく影響する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	演習	キャリアデザインⅡの進め方と評価方法 健康教育発表のチーム分け
2	歯科衛生士のキャリア形成①	演習	知覚過敏用歯磨剤と義歯安定剤セミナー グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社 業界連携セミナー
3	歯科衛生士のキャリア形成②	演習	キシリトールの科学 (株)ロッテ 業界連携セミナー
4	歯科衛生士のキャリア形成③	演習	認定歯科衛生士を目指して活動中の歯科衛生士の体験談/認定歯科衛生士の経験談
5	歯科衛生士のキャリア形成④	演習	歯科衛生士が知っておくべき保険請求
6	歯科衛生士のキャリア形成⑤	演習	歯科衛生士会の活動と支援
7	健康教育の発表	演習	参加者を対象者に見立てて健康教育を実施する
8	課題提出	演習	健康教育の教案・媒体・台本・実施報告の提出

科目名 (英)	衛生行政 Hygiene Administration	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	軽部 裕代
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	火曜日/6限:対面、7限:オンライン
講師紹介	保有資格:歯科医師 略 歴:大学(歯学部)で公衆衛生並びに社会歯科を学び、歯科医学における法律や、関係諸制度の研究と教育に従事し、豊富な経験を有す。さらに研究を発展させるため大学院に進学し、博士号を取得。現在は、新規歯科材料の開発に向けた毒性研究を行なっている。”□						
目的	この科目では、歯科医療従事者として必須事項である、衛生行政機構と関係法規の要点を理解することを目的とする。						
科目概要	歯科衛生士法と、歯科医療関係法規について学ぶ。						
到達目標	歯科衛生士として実務に従事するのに必要な法的知識を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	医歯薬出版株式会社「歯科衛生士と法律 第3版」			事前事後 学習と その内容	事前学習:教科書の該当部分を読み、講義内容の概要を把握する。 事後学習:練習問題集で授業内容を再確認する		
参考図書	オリジナル問題集						
特記事項	練習問題集はオリジナル問題集であるので、学外への持ち出しを禁止する。また、練習問題集は、毎回持参すること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	「法律」とは何か？	講義	「法律」とは何か？ 「日本国」憲法第25条」について学ぶ
2	医療に関する法律①	講義	行政組織について学ぶ 「地域保健法」について学ぶ
3	医療に関する法律②	講義	医療関係職種とそれぞれの業務内容について学ぶ 「医療法」について学ぶ
4	医療に関する法律③	講義	「歯科衛生士法」について学ぶ
5	医療に関する法律④	講義	「健康増進法」について学ぶ
6	医療に関する法律⑤	講義	「医薬品医療機器等法」について学ぶ 「歯科口腔保健の推進に関する法律」について学ぶ
7	医療に関する法律⑥	講義	その他の「保健衛生法規」について学ぶ
8	定期試験		筆記試験(講義内容全範囲から出題)(国家試験に準じた択一形式)

科目名 (英)	社会福祉学 Social Welfare	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	軽部 裕代
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	木曜日/6.7限:対面
講師紹介	保有資格:歯科医師 略歴:大学(歯学部)で公衆衛生並びに社会歯科を学び、歯科医学における法律や、関係諸制度の研究と教育に従事し、豊富な経験を有す。さらに研究を発展させるため大学院に進学し、博士号を取得。現在は、新規歯科材料の開発に向けた毒性研究を行なっている。□						
目的	高齢化社会に伴い保健医療と福祉の連携の必要性が強調されている。 歯科医療と福祉をつなぐエキスパートに必要な社会保険と社会福祉について理解する。						
科目概要	わが国における社会保険制度(年金保険・雇用保険・医療保険・労働者災害補償保険・介護保険)や生活保護制度と社会福祉制度について学ぶ。						
到達目標	政府が実施している社会保障制度(社会保険や公的扶助)と、社会福祉の基本的理念と現行制度について学習する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	医歯薬出版株式会社「歯科衛生士と法律 第3版」			事前事後 学習と その内容	事前学習:教科書の該当部分を読み講義内容の概要を把握する。 事後学習:練習問題集で授業内容を再確認する。		
参考図書	オリジナル問題集						
特記事項	練習問題集はオリジナル問題集であるので、学外への持ち出しを禁止する。また、授業時には毎回持参すること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	わが国における社会保障制度	講義	「わが国における社会保障制度」について学ぶ 「生活保護制度」について学ぶ
2	社会保険①	講義	「年金保険制度」・「雇用保険制度」・「労働者災害補償制度」について学ぶ
3	社会保険②	講義	「介護保険制度」について学ぶ 介護保険における歯科衛生士の役割について学ぶ
4	社会保険③	講義	「医療保険制度」について学ぶ 「診療報酬」と「保険診療の流れ」について学ぶ
5	わが国における医療保険制度	講義	「医療保険」の種類とその特徴について学ぶ 「国民医療費」について学ぶ
6	社会福祉①	講義	「社会福祉」とな何か？ 「児童福祉」・「母子福祉」・「高齢者福祉」について学ぶ
7	社会福祉②	講義	「障害者福祉」について学ぶ 「その他の福祉」について学ぶ
8	定期試験		筆記試験(講義内容全範囲から出題)(国家試験に準じた択一形式)

科目名 (英)	障がい者歯科学 Dentistry for Handicapped Person	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	杉山 智美
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	火曜日/6限:オンライン、7限:対面
講師紹介	保有資格:歯科医師免許(小児歯科指導医・障害者歯科認定医)・保育士免許 略歴:平成14年より昭和大学病院小児歯科にて小児歯科・障害者歯科診療に従事し、豊富な経験を有す。平成22年に保育士免許取得。現在に至る。						
目的	患者の障害に対して正しい理解をし、患者本人のみならず家族や介護者へ適切な対応を起こすための知識、また、治療際して特別な対応を要する患者に対しても、安全に診療介助・口腔衛生指導ができるための知識を習得する。						
科目概要	障害に対する理解を深め、適切かつ安全な歯科診療のため知識習得。						
到達目標	障害者とその家族の健康状態とや環境を充分考慮して、診療介助や口腔衛生指導を行うための知識を修得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	最新歯科衛生士教本 障害者歯科(第2版)			事前事後 学習と その内容	講義の最後に小テストを実施する。		
参考図書	歯科衛生士講座 障害者歯科学 第3版(永末書店)						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	障害者歯科概論	講義	・障害とはなにか ・障害者にかかわる法律 ・障害の分類
2	障害者への対応法	講義	・障害者に対する行動変容法 ・代表的な行動変容法の特徴を説明できる(TSD法など) ・障害に適した歯科的対応法の選択
3	特別な支援を要する疾患(1) (発達障害)	講義	・広範性発達障害と歯科治療 ・精神発達遅滞と歯科治療
4	特別な支援を要する疾患(2) (染色体異常)	講義	・染色体異常とはなにか ・ダウン症候群と歯科治療 ・筋ジストロフィーと歯科治療
5	特別な支援を要する疾患(3) (肢体不自由・盲・聾)	講義	・感覚障害の種類 ・歯科治療時の配慮について ・感覚障害を伴う疾患
6	障害者と薬	講義	・障害者が合併しやすい疾患と薬について ・歯科で注意を要する薬剤について ・薬剤が口腔内に与える影響について
7	障害者歯科のまとめ	講義	障害者歯科総括 障害のある方とその家族へのケアについて
8	定期試験		筆記試験(講義内容全範囲から出題)

科目名 (英)	高齢者歯科学 Dental Geriatrics	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	城 明妙
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	木曜日/6限:オンライン、7限:対面
講師紹介	歯科衛生士学校卒業後矯正歯科勤務、行政、メーカーなどを経て現職へ。訪問歯科、介護予防、摂食嚥下、地域歯科保健、企業検診等に携わる。□ 歯科衛生士が生涯現役で活躍できる仕組みづくりを実施するなど豊富な経験を有す。 訪問歯科口腔ケア、摂食嚥下評価と訓練についての認定制度を設立し認定修了書多数。□ 介護、教育等認定資格を多数取得。現場経験を生かした講義を実施している。□						
目的	超高齢社会における歯科衛生士の役割を認識し、外来、訪問、地域社会において、専門職として多職種連携を図るための知識を幅広く習得する。田のため、 高齢者歯科学では歯の問題だけでなく、全身疾患、服薬と口腔機能、嚥下機能との関係や口腔の粘膜疾患についての知識をしっかりと習得する必要がある。□ 近年の国家試験問題にも多数、この分野から複合的な出題がされているため、非常に重要な分野である。□						
科目概要	高齢者の心身と全身疾患及び口腔の状態や疾患について理解を深める。高齢者に関わりの深い法律や制度の概要を知る。高齢者の摂食嚥下機能の評価と 訓練について理解し、多職種連携の必要性について理解を深める。訪問歯科診療の概要と歯科衛生士の役割を理解する。						
到達目標	高齢者の心身やり患しやすい疾患についての理解を深め、日本の抱える超高齢社会における問題点に寄り添いながら、歯科衛生士としての役割を考えること ができるようになる。・介護保険等高齢者に関わりの深い制度について理解が深まり、歯科衛生士の役割を理解する。・高齢者の心身のアセスメント評価が できるようになる。・多職種連携の重要性を知り、どのようなかわり方が必要か考えられる。・摂食嚥下機能・口腔機能・口腔衛生についての評価や管理が実 施でき、また、適切な訓練が実施できるようになる。						
評価方法	出席率、個人課題評価の要素で評価する。評価はS(合格)またはU(不合格)にて表記する。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	医歯薬出版 歯科衛生士学シリーズ 高齢者歯科学			事前事後 学習と その内容	教科書を事前に読み、予習しておくこと		
参考図書	無し						
特記事項	配布資料あり						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	高齢者をとりまく社会と環境	講義	・超高齢社会の現状・健康寿命と平均寿命の違い ・高齢者に関わる法制度について ・介護保険制度について
2	加齢による身体的・精神的変化と疾患	講義	・高齢者の心、からだの特徴 ・老化と加齢の違いについて ・高齢者の口腔の特徴 ・高齢者に多い疾患 ・認知症の理解
3	高齢者の状態の把握	講義	・生活・ADLの評価について ・認知機能の評価の方法 ・バイタルサインの理解 ・血液検査の知識 ・高齢者の栄養状態 ・低栄養とは ・服薬の知識
4	高齢者の口腔健康管理	講義	・高齢者の口腔に関する特徴 ・口腔をケアする方法(自立・介助) ・口腔ケアに用いる用具 ・有病高齢者への口腔ケア実施方法と留意点 ・要介護高齢者の口腔ケア実施方法と留意点 ・口腔ケア困難者への対応
5	高齢者の摂食嚥下リハビリテーション	講義	・摂食嚥下の仕組みの理解 ・高齢者に多い摂食嚥下機能障害 ・摂食嚥下機能の評価 ・摂食嚥下機能の訓練とリハビリテーション ・在宅、施設等における摂食嚥下機能のリハビリテーション実施方法
6	高齢者に関わる医療と介護	講義	・在宅医療で実施する事 ・訪問歯科診療と往診の違い ・訪問歯科診療で行うこと ・介護保険制度における訪問歯科診療の役割 ・歯科衛生士が行う居宅療養管理指導 ・介護予防について
7	高齢者に関わる歯科衛生士の実践 講義纏め	講義	・事例をもとに歯科衛生過程を整理する ・アセスメント、情報収集、情報の分類 ・歯科衛生診断 ・計画立案 ・評価 ・高齢者歯科学の要点整理
8	定期試験		・筆記試験(講義内容全範囲から出題)

科目名 (英)	歯科衛生過程演習 Dental Health Process Practice	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	菅野 由香梨
		授業形態	演習		有	開講区分	
		時間数	30	授業回数	8		
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	月・金曜日/6.7限:対面
講師紹介	福島県と神奈川県 の歯科医院にて一人ひとりに合わせた予防処置を実践することで地域の人々の口腔の健康に寄与。豊富な歯科臨床現場での経験を もとに、現在は日本医歯薬専門学校の専任教員に着任。						
目的	歯科衛生過程の理論を理解し、歯科衛生アセスメントから歯科衛生評価までの一連のプロセスを実践する						
科目概要	歯科衛生過程に基づき、長期目標・短期目標を立て、相互実習内において実際に患者指導ができるようにする						
到達目標	・歯科衛生過程における各構成要素の目的を理解したうえで実践できる ・歯科衛生過程における書面化(業務記録)を実践できる						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論			事前事後 学習と その内容	演習にて作成したレポートから歯科衛生過程の理論を振り返り、知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	忘れ物があつた場合小テストは0点、実習着忘れ等実習の安全が確保できないと判断した場合実習は参加できず見学とする。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	歯科衛生過程演習Ⅱオリエンテーション	演習	・歯科衛生過程演習Ⅱにおける講義、演習の流れについて ・歯科衛生過程における書面化について(使用する書類の説明)
3・4	情報収集のための相互実習	演習	・予診票を参考にしながら適正な時間内で医療面接を行う ・口腔内観察、プロービングを適正な時間内で行う ・染め出しと記録を適正な時間で行う
5・6	歯科衛生アセスメント	演習	・情報収集のための相互実習から得られた対象者の情報を整理し、業務記録に記す
7・8	歯科衛生介入のための相互実習 (指導計画の実施)・中間テスト	演習	・歯科衛生介入のための指導計画を適正な時間内で実施する ・中間テストは「指導計画の実施」におけるSOAPの記録のレポート提出とする
9・10	歯科衛生介入のための相互実習 (ケア計画の実施)	演習	・歯科衛生介入のためのケア計画を適正な時間内で実施する
11・12	歯科衛生評価のための相互実習	演習	・予診票を参考にしながら適正な時間内で医療面接を行う ・口腔内観察、プロービングを適正な時間内で行う ・染め出しと記録を適正な時間で行う
13・14	歯科衛生過程演習まとめ (業務記録の完成)	演習	・歯科衛生アセスメントから歯科衛生評価までの一連のプロセスについて論理的かつ客観的に業務記録に記す
15	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	歯科保健指導論Ⅳ Dental Health Guidance Theory Ⅳ	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	矢野 裕己
		授業形態	演習		有		
		時間数	30	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	月・金曜日/6.7限・対面
講師紹介	歯科診療所にて、障害者歯科、訪問歯科診療に携わり、豊富な実務経験を有す。2011年より歯科衛生士専任教員として着任。多職種と連携ができる能力が必要であると考える。						
目的	人びとの多様なニーズに対して科学的根拠を持って専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力を養う。						
科目概要	歯科保健指導の概要について学び、実践するための基礎知識を習得する。						
到達目標	歯科保健指導(口腔の健康を維持管理し、対象者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識及び技術)を理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論(歯科衛生士教本)			事前事後 学習と その内容			
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	健康教育の概要と進め方 健康教育の方法と評価	演習	地域保健に関連するさまざまな施策/ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ PDCAサイクル 媒体の種類と活用 プロセス評価/アウトプット評価/アウトカム評価/ストラクチャー評価
3・4	地域歯科保健活動のフィールド	演習	健康教育の計画・立案 対象集団に合わせた効果的な伝達方法①
5・6	グループワーク/個人ワーク①	演習	健康教育の計画・立案 対象集団に合わせた効果的な伝達方法②
7・8	グループワーク/個人ワーク②	演習	健康教育の計画・立案 対象集団に合わせた効果的な伝達方法③
9・10	グループワーク/個人ワーク③ 発表会	演習	健康教育の計画・立案 対象集団に合わせた効果的な伝達方法④ 個人発表／グループ発表
11・12	要介護者の口腔健康管理	演習	歯科衛生士による口腔衛生管理のポイントと留意点 介護予防のための口腔機能の維持向上 マナボット
13・14	大規模災害時の歯科保健活動	演習	医療活動と保健活動/フェーズごとの歯科保健医療 アセスメントと支援活動/災害時の多職種連携
15	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名 (英)	臨地・臨床実習Ⅳ Clinical Traning Ⅳ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小櫃 綾乃
		授業形態	臨地実習		有		
		時間数	225	授業回数		開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	5			曜日/時間	月・火・水・金・(土)
講師紹介	中学高等学校英語教諭Ⅰ種取得、訪問介護員2級養成研修課程修了、歯科医院での臨床経験(一般歯科・予防歯科・口腔外科・審美歯科等)、企業健診経験など豊富な実務経験を有す。2014年より歯科衛生士養成校にて専任教員として勤務						
目的	医療現場を体験することにより、 ①歯科医療及び歯科保健活動をより深く理解する。②歯科衛生士として必要な専門的な知識・技術を学ぶ。③対象者のニーズに応じたコミュニケーション方法を習得する。						
科目概要	実際の患者様への対応や処置など能動的な学びを行う。						
到達目標	指導者の直接指導の下、学内実習で習得した技術を実践し、歯科衛生士としての業務を行う基礎を固め、業務の実際を習熟する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 □実技試験 ■その他()						
教科書				事前事後 学習と その内容	実習前教育で臨地実習の準備を行いと実習後教育で振り返りを行う。		
参考図書							
特記事項	評価および規則の詳細については「臨床実習について」を参照。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習前教育	講義	臨地臨床実習の目的・目標を把握し、自己紹介書の記入、事前訪問など臨地臨床実習に望むための気構え・身構え・心構えを身につける。
2	臨地・臨床実習	臨地実習	各実習施設にて臨地。臨床実習を行う。
3	実習後教育	講義	臨地臨床実習の振り返りを行い、各施設の情報共有を行うことで学びを水平展開する。
4			
5			
6			
7			
8			

科目名 (英)	臨地・臨床実習Ⅴ Clinical Traning Ⅴ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小櫃 綾乃
		授業形態	実習		有		
		時間数	180	授業回数		開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	4			曜日/時間	月・火・水・金・(土)
講師紹介	中学高等学校英語教諭Ⅰ種取得、訪問介護員2級養成研修課程修了、歯科医院での臨床経験(一般歯科・予防歯科・口腔外科・審美歯科等)、企業健診経験など豊富な実務経験を有す。2014年より歯科衛生士養成校にて専任教員として勤務						
目的	医療現場を体験することにより、 ①歯科医療及び歯科保健活動をより深く理解する。②歯科衛生士として必要な専門的な知識・技術を学ぶ。③対象者のニーズに応じたコミュニケーション方法を習得する。						
科目概要	実際の患者様への対応や処置など能動的な学びを行う。						
到達目標	実践を重ね、歯科衛生士に必要な技術と知識を蓄積させ、個々の症例や患者に応じた対応ができるようにする。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 □実技試験 ■その他()						
教科書				事前事後 学習と その内容	実習前教育で臨地実習の準備を行いと実習後教育で振り返りを行う。		
参考図書							
特記事項	評価および規則の詳細については「臨床実習について」を参照。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習前教育	講義	臨地臨床実習の目的・目標を把握し、自己紹介書の記入、事前訪問など臨地臨床実習に望むための気構え・身構え・心構えを身につける。
2	臨地・臨床実習	臨地実習	各実習施設にて臨地。臨床実習を行う。
3	実習後教育	講義	臨地臨床実習の振り返りを行い、各施設の情報共有を行うことで学びを水平展開する。
4			
5			
6			
7			
8			

科目名 (英)	インプラントアシスト Oral Implantology Assistance	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	川上 紗和子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	水曜日/6限:オンライン、7限:対面
講師紹介	東京医科歯科大学 インプラント・口腔再生医学分野にて学位を取得後、同大学病院 インプラント科にて医員として在籍。多くの症例に携わり、豊富な実務経験を有する。現在、日本歯科大学附属病院 口腔インプラント診療科助教。						
目的	さまざまなライフステージにおける高度歯科医療に対応するために、専門的なインプラント治療の補助に関する知識および態度を身につける。						
科目概要	インプラント治療について						
到達目標	歯科衛生士としてインプラント治療の術式の一部を担うために、また、歯科医師とチームを組み診療を行うにあたり必要な知識、態度を身につける。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	インプラントアシスタントワークマニュアル			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後を実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	講義の写真撮影および録音などは禁止。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	インプラント総論	講義	インプラント治療の基礎知識を理解する。インプラント治療の意義、特徴、インプラントの種類、構造、オッセオインテグレーションを説明できる。
2	インプラント治療における検査、診断および治療計画	講義	インプラント治療の流れを理解する。インプラント治療の適応症、禁忌症を説明できる。
3	インプラント手術の準備と片付け	講義	インプラント器具の滅菌方法、インプラント治療における清潔域、不潔域、消毒の重要性を理解する。インプラント器具の準備、後片付けと保管方法、インプラント用材料の使用目的を説明できる。
4	手洗い、ガウンテクニック	実習	インプラント治療の手洗いを実施できる。ガウンテクニックを実施できる。
5	インプラント手術のアシスタントワーク	講義	手術におけるアシスタントの役割を理解する。手術当日のアシスタントの役割、手順と手術後のアシスタントの役割、患者管理を理解する、
6	インプラント補綴のアシスタントワーク	講義	補綴処置のアシスタントワークを理解する。印象採得から補綴装着までの流れを理解する。
7	インプラント患者のメンテナンス	講義	メンテナンスの重要性を理解する。メンテナンス時の検査項目、プロフェッショナルケアの方法を説明できる。ブラークコントロールの重要性、口腔清掃方法と器具の使用方法を指導できる。
8	定期試験		

科目名 (英)	チーム医療演習Ⅱ Team Medicine PracticeⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	嶋倉 史剛
		授業形態	演習		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	水曜日/6限:対面、7限:オンライン
講師紹介	略歴:2000年 明海大学歯学部 卒業 2000年～2006年 明海大学病院歯周病学講座 勤務 2012年9月 あらやしき歯科医院 開業 臨床医、学会や協会などのセミナー講師あるいは学会発表/論文投稿など、豊富な実務経験を有している 所属・資格:IPSG包括歯科医療研究会 副会長 日本総合口腔医療学会 常任理事 日本嚥下機能訓練協会 理事 オーラルビューティーフード協会 理事 日本顎咬合学会 かみ合わせ認定医 著書:「入れ歯の悩みが一生消える～ドイツ式テレスコープシステム～」 「あなたから笑顔を奪う日本の入れ歯事情」						
目的	医療の現場ではチーム医療が推進されている。チーム医療は、従来、医師が中心となっていた医療を職種の異なる医療従事者がお互いの専門性を発揮しスムーズに連携し患者中心の医療を達成しようとするものである。本講義では、歯科衛生士がチーム医療で関わる職種を知り、歯科衛生士の果たす役割を学ぶ。さらに、他業種と連携する上で歯科衛生士が知っておきたい全身疾患について解説を行う。						
科目概要	多職種と連携するために必要な全身疾患の知識を身に付け、歯科衛生士の社会的な役割の大きさや歯科衛生士による社会貢献の多様性について学ぶ。						
到達目標	歯科衛生士がチーム医療で関わる職種の専門技能を知り、歯科衛生士の果たす役割を理解し、多職種とコミュニケーションを取りながら意思決定をしていく力を養う。さらに、他業種と連携する上で歯科衛生士が知っておきたい全身疾患の基礎知識を身に着ける。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	配布資料にて			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	講義および提示資料について、原則、写真撮影及び録音録画を禁止する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	チーム医療とは	演習	チーム医療の定義が言える チームによって得られる効果を説明できる 口腔ケアの目的と必要性が説明できる
2	チーム医療とガン	演習	がん治療の化学療法・放射線治療による口腔領域の合併症を説明できる がん患者に対する歯科衛生士による口腔ケアを説明できる
3	チーム医療と脳卒中	演習	脳卒中を説明できる 脳卒中による口腔への影響を説明できる 脳卒中と口腔ケアを説明できる
4	チーム医療と心血管疾患	演習	急性心筋梗塞を説明できる VAP(人工呼吸器関連肺炎)について説明できる 急性心筋梗塞の治療に伴う口腔症状と口腔ケアを説明できる
5	チーム医療と糖尿病	演習	糖尿病を説明できる 糖尿病患者における歯周病の症状について説明できる 糖尿病患者への口腔ケアについて説明できる
6	チーム医療と精神疾患	演習	統合失調症・うつ病を説明できる 認知症を説明できる 認知症患者に対する口腔ケアについて説明できる
7	チーム医療と歯科衛生士	演習	病院におけるチーム医療の実際を理解する チーム医療における歯科衛生士の役割・仕事内容を説明できる
8	定期試験		筆記試験(講義内容全範囲から出題)

科目名 (英)	口腔リハビリテーション Oral Rehabilitation	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	山田 あつみ
		授業形態	演習		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	木曜日/6限:対面、7限:オンライン
講師紹介	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士歯科衛生士 介護口腔ケア推進士 修士(医療福祉)。多機能型クリニックに勤務しており、内科や栄養士とのチーム連携での居宅療養管理指導の現場で、オーラルフレイル対策から摂食嚥下リハビリテーションを長年の経口摂取の維持改善に導いてきた経験を生かして、要介護高齢者のQOLやADLの向上に関われる歯科衛生士を育成し、学会発表やセミナーを通じて口腔ケアや口腔リハビリテーションを他職種に向けて啓蒙している						
目的	臨床現場、介護現場で活躍できる歯科衛生士を目指す						
科目概要	歯科医師の指導のもと、歯科衛生士ができる口腔の機能の向上(オーラルフレイル予防から経管栄養→経口摂取)に導くスキルを学ぶ						
到達目標	高齢者から摂食嚥下障害患者まで、歯科衛生士による口腔ケアと口腔リハビリテーションによりオーラルフレイルを予防し、健口を維持する評価方法、訓練方法、チーム医療連携、代償的手技、医療面接のスキルを学ぶ						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	「歯科衛生士の摂食嚥下リハビリテーション」医歯薬出版			事前事後 学習と その内容	提示した症例から、実際の現場での取り組みを学ぶ。定期試験前に、授業の概要を復習し振り返る		
参考図書							
特記事項	提示するビデオ映像、器具、機能訓練などに関心を持って受講する						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	2つの口腔ケア、口から全身への関連	演習	具体的な専門的口腔ケアと、全身に与える影響、口腔(摂食嚥下)リハビリテーションの概要
2	摂食嚥下のメカニズム	演習	食物を認識し、食塊形成、送りこみ、嚥下反射、食道への移送のメカニズム
3	歯科衛生過程	演習	主観的情報一再評価までの過程、ゴール設定まで SOAPIE チーム医療
4	介護予防へのアプローチ	演習	比較的軽度なオーラルフレイルの方(介護予防)への対応、健口体操、窒息予防
5	重篤な嚥下障害の方へのアプローチ	演習	重篤な方への評価方法(頸部聴診法ほか)一間接訓練
6	重篤な口腔粘膜疾患、実地指導	演習	重篤な方の口腔粘膜疾患について、対応方法、姿勢調整、気管カニューレ
7	経管栄養から経口摂取へ	演習	直接訓練、段階的摂食訓練、代償的手技、経管栄養、学会分類、食事介助法、試食
8	定期試験		

科目名	摂食・嚥下機能訓練	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	大野 慎也
		授業形態	講義		有		
(英)	Function Training of Feeding and Deglutition	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	木曜日/6.7限:対面
講師紹介	保有資格:歯科医師、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士 大学卒業後、研修医を修了し、その後日本大学大学院歯学研究科歯学専攻修了。2022年より日本大学歯学部摂食機能療法学講座兼任講師に就任。現在、訪問歯科を主軸とする診療所を中心に勤務し、豊富な実務経験を有している。						
目的	歯科衛生士と摂食嚥下の関わりについて認識を深め、摂食嚥下リハビリテーションの概念やメカニズム、さらには発達、障害の状態を正しく理解したうえで、小児期、成人期、高齢期の摂食嚥下障害の特徴や変化、歯科衛生士の実践についての考え方や訓練法の実際、チームアプローチや連携に必要な関係職種の理解等、摂食嚥下リハビリテーションに関する基礎的な知識や手技を習得する。						
科目概要	主に歯科衛生士として実施する摂食機能療法や専門的な口腔ケアに係る知識や手技に関して講義を行う。						
到達目標	小児や高齢者に対する摂食機能療法や口腔ケアに関わる知識や手技を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版			事前事後 学習と その内容	教本の該当ページを最低1回は読み、予習をしてくること。その際、読めない漢字がないようにしてくること。		
参考図書							
特記事項	特になし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	リハビリテーション医学について	講義	リハビリテーションについて理解する 摂食嚥下にかかわる器官やメカニズムを理解する 摂食嚥下障害の病態について理解する
2	間接訓練	講義	歯科衛生士ケアプロセスを理解する 間接訓練・直接訓練の位置づけについて理解する 間接訓練について理解する
3	直接訓練	講義	直接訓練について理解する 誤嚥と窒息の違いについて理解する
4	代償的アプローチ・環境改善的アプローチ	講義	代償的アプローチについて理解する 環境改善的アプローチについて理解する
5	発達期のリハビリテーション	講義	食べる機能の発達過程について知る 口腔機能の発達を理解したうえで、小児の摂食・嚥下障害について理解する
6	介護における歯科衛生士の役割	講義	摂食嚥下リハビリテーションに関わる職種について知る チームアプローチにおける摂食嚥下リハビリテーションの一例を知る
7	口腔ケア	講義	口腔ケアについて知る障害者・高齢者等に対する口腔ケアを知る 車椅子の部位・使用方法について知る
8	定期試験		筆記試験(講義内容全範囲から出題)

科目名 (英)	地域保健活動 Community Health Activities	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	軽部 裕代
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	木曜日/6限、7限:対面
講師紹介	保有資格:歯科医師 略歴:大学(歯学部)で公衆衛生並びに社会歯科を学び、歯科医学における法律や、関係諸制度の研究と教育に従事し、豊富な経験を有す。さらに研究を発展させるため大学院に進学し、博士号を取得。現在は、新規歯科材料の開発に向けた毒性研究を行なっている。”□						
目的	臨床における歯科保健指導と、公衆衛生現場活動における歯科保健教育の実施に向け、対象の把握、対象別指導法、対話訓練等が実践できる。						
科目概要	これまで学習した歯科専門領域の基礎知識をあらゆる年齢層の対象者に適用し、科学的根拠に基づいて必要な歯科保健指導を実践できる能力を養う。						
到達目標	地域で実施されている歯科保健活動の内容と、歯科衛生士が実施すべき歯科保険指導と歯科保健活動の実践方法が理解できる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	医歯薬出版株式会社「保健生態学」			事前事後学習とその内容	事前学習:教科書の該当部分を読み、講義内容の概要を把握する。 事後学習:練習問題集で授業内容を再確認する		
参考図書	オリジナル問題集						
特記事項	練習問題集はオリジナル問題集であるので、学外への持ち出しを禁止する。また、授業時には毎回持参すること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	「地域保健」	講義	「地域保健」の概要と「地域歯科保健活動」の進め方について学ぶ
2	「母子保健」	講義	「母子保健」の概要と「母子歯科保健活動」の実践のポイントについて学ぶ
3	「学校保健」	講義	「学校保健」の概要と「学校歯科保健活動」の実践のポイントについて学ぶ
4	「産業保健」・「成人保健」	講義	「産業保健」の概要と「産業歯科保健活動」の実践のポイントについて学ぶ 「成人保健」の概要と「成人歯科保健活動」の実践のポイントについて学ぶ
5	「高齢者保健」	講義	「高齢者保健」の概要と「高齢者歯科保健活動」のポイントについて学ぶ
6	「精神保健」・「災害保健」・「障害者保健」	講義	「精神保健」の概要と「災害時の歯科保健活動」のポイントについて学ぶ 「障害者保健」の概要と「障害者歯科保健」のポイントについて学ぶ
7	「地域歯科保健活動」のまとめ	講義	「地域歯科保健活動」の評価方法について学ぶ
8	定期試験		筆記試験(講義内容全範囲から出題)(国家試験に準じた択一形式)

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座 Dental Hygienist complete Course	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小櫃 綾乃
		授業形態	講義		有		
		時間数	150	授業回数		開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科Ⅱ部	単位	10			曜日/時間	月～金/6・7限:対面
講師紹介	中学高等学校英語教諭Ⅰ種取得、訪問介護員2級養成研修課程修了、歯科医院での臨床経験(一般歯科・予防歯科・口腔外科・審美歯科等)、企業健診経験など豊富な実務経験を有す。2014年より歯科衛生士養成校にて専任教員として勤務						
目的	歯科衛生士国家試験合格に必要な知識・技術を総合的に習得する。						
科目概要	歯科衛生士国家試験合格に必要な知識・技術を総合的に習得する						
到達目標	卒業判定試験に合格し、歯科衛生士国家試験に向けて、知識を蓄積させる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 □実技試験 ■その他()						
教科書	日本医歯薬研修協会「Complete+DH」			事前事後 学習と その内容			
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1～10	人体の構造と機能	講義	解剖学・生理学について応用力をつける
11～20	歯・口腔の構造と機能	講義	口腔解剖学・口腔生理学について応用力をつける
21～30	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	講義	病理学・口腔病理学・微生物学・口腔ぎ生物学・薬理学・歯科薬理学について応用力をつける
31～40	歯・口腔の健康と予防に関わる人間の仕組み	講義	口腔衛生学・公衆衛生学・衛生行政・社会福祉論について応用力をつける
41～50	臨床歯科医学	講義	臨床検査・保存修復学、歯内療法学、歯周治療学、歯科補綴学、口腔外科学、小児歯科学、歯科矯正学、高齢者歯科学、障害者歯科学について応用力をつける
51～60	歯科予防処置論	講義	歯科予防処置論について応用力をつける
61～70	歯科保健指導論	講義	歯科保健指導論について応用力をつける
71～80	歯科診療補助論	講義	歯科診療補助論について応用力をつける